

第8回日韓商標専門家会合について

国際課 商標課

1. はじめに

本年（2011年）4月21、22日の両日、特許庁内において、第8回日韓商標専門家会合が行われました。

この会合は、2000年11月の第12回日韓特許庁会合において、日本と韓国の両国特許庁が商標審査の制度・運用の課題について情報交換や意見交換を行うことによってそれぞれの特許庁における商標審査実務に役立てるとともに、両国の制度・運用についての理解を深めるために設けられました。2001年6月に日本において第1回日韓商標審査官会合が開催されました。その後、2008年3月の第6回目の会合から、商標審査に関する運用上の問題点のみならず、条約や政策的事項など、両庁が関心を有する幅広い分野での議論を行うべく、名称を「日韓商標審査官会合」から「日韓商標専門家会合」へ変更しました。

今回の会合には、東北地方を見舞った震災の直後であるにもかかわらず、韓国特許庁（以下、「KIPO」）から、朴晟濬 (PARK, Seong-Joon) 商標審査政策課長をはじめ4名の専門家に来日して頂きました。これに対し、橋本審査業務部長から、震災後に頂いた李商標・デザイン局長からのお見舞いのレター、被災者への救済措置の適用、また、KIPO職員による義援金に対し感謝の意を表明いたしました。



（左から、KIPO 徐正淑商標審査政策課事務官、朴晟濬同課課長、JPO 橋本審査業務部長、KIPO 韓孝錫商標審査I課長補佐、JPO 水荃商標課長、KIPO 尹鍾碩商標政策課上級課長補佐、張萬澈在日韓国大使館参事官）

2. 会合の概要

今回の第8回日韓商標専門家会合においては、商標審査に関する運用上の議論のみならず、法律改正、条約関連事項、政策事項など、両庁が関心を有する幅広い分野で活発な議論が行われました。特に、KIPOからは、前会合からオブザーバー参加している商標三極会合の正式メンバーとしての参加について、早急な結論を求めるなど強い働き掛けがありました。JPOからは、今後の三極間の議論において、三極の拡大の是非に関する各庁の考え方の相違や、拡大するとした場合の地域バランスを含むメンバーの選定基準等、課題も多く、簡単には結論が得られない状況である旨説明しました。さらに、KIPOも参加している三極協力プロジェクトのひとつである「3庁IDリスト」¹へ、“プルコギ”、“ビビンパ”などの韓国の伝統的食品名称を商品表示として採用することに関し、積極的な姿勢が見られました。今後、KIPOの提案が欧米でも受け入れられるよう、既に多くの独自の商品・役務を3庁IDリストに掲載しているJPOからのアドバイスが求められました。

一方、JPOは、韓EU、韓米FTAの進捗及び商標法への影響について聴取し、新しいタイプの商標や証明商標制度の導入等についてKIPOに質疑し多くの情報を得ることができました。また、韓国では商標審査官経験者が「商標権特別司法警察隊」²として商標権侵害を取り締まり、成果が上がっていること、審査官を評価し表彰するために報償金が支払われる等、斬新なKIPOの制度について理解を深めることができました。加えて、固有の言語を有する両国にとっては、海外向けの商標情報の提供に関して商標の検索方法、指定商品の翻訳の問題等、共通の課題が多いことから、引き続き情報交換を行っていくことを確認しました。

また、2010年12月1日の日韓特許庁長官会合において締結された、「地域団体商標及び地理的表示のリストの交換に関する協力覚書」に基づき、両庁における商標審査の参考資料として活用するため、日本の地域団体商標と韓国の地理的表示のリストを、掲載項目を整理したうえで再交換しました。併せて、リストに掲載された地域団体商標、地理的表示を含む商標が他人により出願された場合の両庁の審査運用について比較検討し、判断の方向に大きな相違はないことを確認しました。



1. 三庁IDリスト：三極で受け入れ可能な商品・サービスの Identification（表示）リスト。
2. 2010年9月にKIPOに発足した警察・検察・自治体と連携し商標権を侵害する模倣品に対して押収・捜索・拘束などの権限を行使する組織。

3. おわりに

今回の会合は、震災の影響もあり一時は延期の可能性も検討されましたが、結果的には予定どおりに開催することができ、かつ、大変実り多き会合となりました。商標審査の制度・運用の課題について、共通点の多い両国が互いに協力することで、効果的に両国制度の発展に繋がるものと確信しています。両庁は、今後も専門家レベルでの交流、協力を行っていくことを確認いたしました。

また、会合初日（4月21日）の夜には、東京で震度3の地震が発生しました。地震がほとんど発生しない韓国から来日した KIPO の代表団は、生まれて初めて地震を経験したとのことでした。KIPO の代表団は自らも地震の恐怖を体験したことで、震災直後にも関わらず、活気に満ちている日本の状況を見て、改めて感銘を受けたようでした。KIPO の代表団からは、「海外での報道ぶりには誤解がある。帰国後には、日本は安全で活気に満ちていることを自らの経験として、情報発信したい。」と、力強い言葉をもらいました。

最後に、今回の会合にご協力頂きました皆様に、この場をお借りしてお礼申し上げます。